

明確な基準を根拠として行う的確で効率的な総義歯製作の実践

患者さんが快適に使用できる可撤性義歯の提供を目指し、歯科医師との連携を図り、義歯の精度追及のため、患者さんを中心とした情報の共有に取り組んでいる。とくに、総義歯の製作に当たっては BPS (Biofunctional Prosthetic System : 生体機能的補綴システム、イボクラール ビバデント社 : リヒテンシユタイン) を導入している。本システムの特徴は、術式全体が4段階で構成され、各工程と確認作業を細かく指定され、1度の診療で必要とされる情報量が多いため、歯科技工への対応も立会いを必要とする。もっと簡単に言えば、患者さんの義歯製作に対し、ある程度の予測を持って歯科医師と歯科技工士がコミュニケーションを図る術式となっているのである。

総義歯製作システムは無の状態から3次元的な人工臓器を製作するため、各工程の作業を歯科医師と歯科技工士が共通意識を持ちながら分担し、忠実に実行していくカテゴリであり、そのため、妥協は許されない操作が多く、チェアタイムにおいても、印象採得と咬合採得および咬合平面の設定を同時に行うため、1度の診療で行う製作術式は通常より増える。

講演では、本システムの術式における確認項目とその情報伝達方法に関して、臨床例を用いて歯科技工士の立場から普段実践している治療用義歯を含め BPS エステティックデンチャーシステム®について説明する。